

2009年5月24日(日)クロスパルにいがた403・404号室にて『人間として尊厳を持って生きるため必要な教育』と題した第6回ハチプロセミナー/NVC第56回地球を知る講座が開催されました。講師はルワンダの教育を考える会副理事長のカンベルンガ・マリールイズさん。彼女は母国で発生したルワンダ内戦について、自身の体験を元にお話してくださいました。会場には70人を超える人が集まり、皆がルワンダについて、内戦について、そして教育の大切さについて学びました。

ルワンダという国について知る

ルワンダとはどこにあるどんな国なのでしょう？はじめは参加者の多くがその場所や内戦の歴史といった断片的な事柄しか知りませんでしたので、マリールイズさんのこども時代の経験を踏まえたルワンダの紹介から始まりました。アフリカの国ということで暑くて過ごすのが大変な国、と想像していた参加者もいましたが、マリールイズさんの紹介を聞き、実は穏やかで生活しやすい気候であり、豊かな自然と豊富な水源を持っていたと知りました。

また、ルワンダの学校の授業では、日本のことについて勉強する授業がある、有名な高級コーヒーの原産地である、など今まで知らなかったルワンダの人達の生活について知ることもできました。

ルワンダ内戦

ルワンダは、1962年にベルギーから独立しました。独立前の植民地時代に、支配者であるベルギーからツチ族とフツ族の社会階級が定められました。それまでは、ツチ族とフツ族は、同じ言語を話し共に生活をしていました。しかし、社会階級分けされ

ることによって、両者は対立するようになり、それが激化して内紛が始まり、大虐殺という悲劇に繋がってしまいました。

マリールイズさんは、洋裁学校の教員をされていた時、JICAの技術協力として洋裁の研修を受ける為に来日しました。研修を終え、帰国した直後に内戦に巻き込まれました。マリールイズさんの住んでいた村も電気や水道が止まり、ロケット弾が飛来するようになってしまいました。「このままでは何時か殺されてしまう」そう確信して三人のこどもたちとお母さんと一緒に、大変な苦労をしながら難をしのぐはならなくなりました。

難民キャンプでの生活は非常に苛酷なものでした。少しでもお金を得るために毎日沢山の薪を集めなくてはならず、しかしその薪も雨が降ればたちまち流されてしまうといった劣悪な環境で、将来に対して恐怖を感じながら多くの人々が日々を過ごしていたと言います。こどもたちの目からも希望が消えるといった苦しい生活が続きました。

教育の重要性とルワンダのこれから

難民キャンプで苦しい生活が続く中、マリールイズさんは偶然日本人医療ボランティアスタッフに声をかけられ、その医師の通訳の仕事を得て安定した収入を手に入れることができるようになりました。その後かつて日本にいたときにお世話になっていた日本のホスト・ファミリーと連絡がとれ、そして彼らの協力の元、再来日することが出来たのです。

マリールイズさんは教育のおかげで自分は助かったのだと言います。学校で教育を受けていたから裁縫の研修生として日本に



講演の様子

来ることが出来、そしてそこで勉強をしたから難民キャンプで通訳として働くことができ、再来日することが出来たと言います。また、学校の家庭科の時間にパンの作り方を習ったことも辛い難民キャンプでの生活を乗り切るのに役立ったと言います。支給された小麦粉を調理し、販売することにより現金収入が得られたとおっしゃいました。

ルワンダには今なお内戦の後遺症が色濃く残っているといいます、15世帯に一つは虐殺で両親が亡くなっており、こどもが世帯主となって生活している家があるそうです。さらに内戦で多くの自然が破壊された為に雨季と乾季のバランスが崩れているのです。

これらを聞くと、未だに困難な状況であると感じます。しかし、ルワンダの人々は復興に向けて様々なことを実施しています。内戦終結後の新憲法で女性の社会進出を強力に推し進め、その結果議席に対する女性国会議員率が世界一となりました。彼女たちは自分たちの家族のために、また悲惨な歴史を繰り返させないために、一生懸命に頑張っているそうです。

今、マリールイズさんは今では内戦で親を失ったこどもたち、貧困で勉強の機会のないこどもたちに教育の機会を提供して、社会進出を助ける活動を行っています。明日生きているかどうか分からないような状況だったこどもたちが、ちゃんとした教育を受けることで未来に対して夢や希望を持つことが出来たと話されました。

グループワーク

講演終了後は、「話を聞く前後でどのよ

うに自分自身の意識が変化したか」というテーマで、グループワークを実施しました。多くの方がルワンダについて、「まったく知らなかった」「怖い・暑いといったマイナスのイメージしかもっていなかった」というものでしたが、マリールイズさんのお話を聞いて「涼しくて美しい国で是非行ってみたい」「女性の国会議員が多くてスゴイ！（日本も見習うべきだ！）」「平和な日本に感謝しつつ、大変な状況下に置かれている人々に何かをすべきだ」などの意見が交わされました。

おわりに

ルワンダ内戦や難民について、これまでテレビや書物でしか知りませんでした。しかし、このセミナーで実際に内戦に巻き込まれて難民となったマリールイズさんのお話を聞くことでより深刻に考えられることができました。また、内戦のことだけでなく、ルワンダという国やそこに住む人々についても知ることができました。参加者の多くが改めて平和の大切さ、人の繋がりのすばらしさを感じる事が出来たと思います。

（報告者：山根 智洋）



グループワークの様子

NVC 新潟国際ボランティアセンターG8 プロジェクト実行委員会(通称ハチプロ)は、今講演会修了後も定期的に世界の格差、貧困問題等について考える会を実施していきます。詳しくは、随時 NVC ウェブサイトに UP していきますので、皆様ぜひご参加ください。よろしくお願いいたします。

* NVC/新潟国際ボランティアセンター・ハチプロ *

〒950-8507 新潟市中央区西堀前道 6 番町 894-1 西堀 6 番館ビル 3F 新潟市市民活動支援センター内

Tel /Fax: 025-378-5374 E-mail: mikami.anri@nvcjapan.org

2009 年度の事業は、新潟市より中央区市民公益活動補助金を受けて実施しました。